

ユニプレーン〈バリアフリー対応平板〉

●特長

1. 目地部分の振動を大幅に低減

従来のコンクリート舗装材に比べ、目地間隔を狭くすることで、車椅子、自転車やベビーカーなどの通行時の振動を大幅に低減しました。また表面スリットで連続して生じる微小振動により、目地部での振動が体感されにくくなりました。

2. 排水機能の向上と快適な歩行感

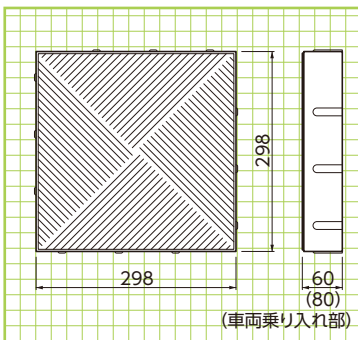
平板中央から4方向にスリットが向いているために滑りにくく、また雨天時にも雨水が目地部分から地下に効率よく排水されます。

3. 意匠性

スリット部の陰影が光線の角度により変化するため、見る角度により舗装面のイメージが異なります。

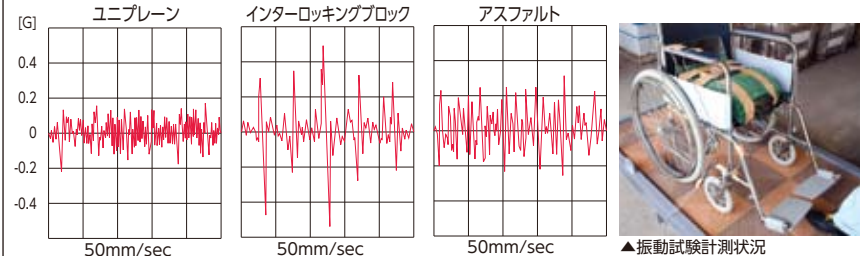


■形状・寸法



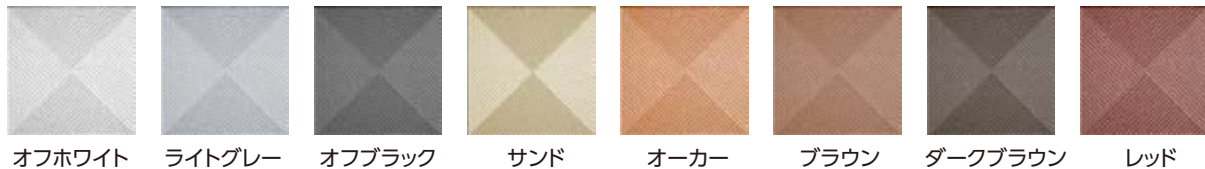
■振動計測結果(トヨタ車体研究所による実験)

車椅子クッション上に60kg負荷し、前輪に加速時計を取り付け、テスト路面を3Km/Hrで手押しし、G(加速度)を測定した。
テスト路面はユニプレーン、インターlockingブロック、アスファルト(やや粗い)とした。



カラーバリエーション(ユニプレーン)

印刷の関係で実際の製品とは若干異なります。



白華(エフロレッセンス)について

施工後のモルタル、コンクリート製品やレンガの表面に白い粉状の物質が付着することがあります。この現象は、白華(あく、エフロレッセンス等)と呼ばれ、セメントを使ったコンクリート製品、レンガ等に見られる外観上起こりうる現象です。

白華(二次白華)は、次のように定義されています。

「セメント中の可溶成分を溶解した溶液が、セメント硬化中に内部の空隙を通過して表面に移動し、空気中の炭酸ガスと反応して表面に付着した白色の物質。」可溶成分とは、おもにカルシウム、ナトリウムですが、これらの成分が雨水、散水、降雪などの水分とともにコンクリート製品の空隙を通過して表面に移動し、空気中の炭酸ガスと反応して白い結晶(炭酸カルシウム)となって現れるものです。

※炭酸カルシウム=鍾乳洞の石灰石と同じもの

セメントを使用した製品や施工等には、必ず起こりうるもので、決して製品の欠陥や異常ではありません。また、製品強度に問題なく、環境に悪影響を及ぼすものではありませんが、残念ながら、現在コンクリート(セメント)製品において、この白華の確実な防止方法はないと言われています。

白華発生の抑制

白華の発生は、セメント硬化体(ブロック)表面からの水分の蒸発に起因します。つまり、水分が移動しやすいほど白華発生の好条件となります。白華防止対策として、設計段階で、施工後のブロックの状態を、水はけのよい、湿気の少ない構造にすることを勧めます。(勾配、水抜き等)